

心つみ

第72号 2026. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

新会員のみなさんより

土地改良区に勤務して……………	江花川沿岸土地改良区……………	17
水落勝幸……………		
よろしくお願ひいたします……………	請戸川土地改良区……………	17
佐藤弘子……………		
宜しく御願ひ致します……………	棚倉町土地改良区……………	18
松本輝也……………		
はじめまして……………	磐城小川江筋土地改良区……………	18
今美貴……………		
よろしくお願ひします……………	安積疏水土地改良区……………	19
宗形凱斗……………		
よろしくお願ひします……………	安積疏水土地改良区……………	19
滝田翼……………		
土地改良区の職員として……………	会津東部土地改良区……………	20
古俣睦……………		
よろしくお願ひいたします……………	水土里ネット福島……………	20
古関隼也……………		
よろしくお願ひいたします……………	水土里ネット福島……………	21
岡田由紀子……………		

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 石川 博利



新年明けまして、おめでとうございます。

会員の皆様には、令和八年の新春をご健勝にてお迎えのことと心よりお慶び申し上げますとともに、平素より本協議会の運営にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、第四十九回総会を前年同様に、郡山市のビッグパレットふくしまで開催いたしました。ご来賓の福島県土地改良事業団体連合会会長齋藤善平様のご臨席のもと、特別功労者の五十嵐賢一様を始め十九名の永年勤続者表彰ができました。受賞者の皆様の、地域におけるご努力に敬意を表しますとともに、今後のますますのご活躍をご祈念申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症による事業中止以降、初めてとなる宿泊をともなう県外研修を、十一月に実施し、三十二名の参加をいただきました。

今回は、山形県の白鷹町土地改良において、先進的な土地改良事業の取り組み、南東北クボタ山形エリア事業所では、スマート農業について、研修及び現地視察並びに活発な意見交換となり有意義な研修なったことと思えます。

私たちの生活も平常に戻ってきた感がありましたが、十二月八日に発生した青森県東方沖地震は発生時刻が二十三時十五分頃と深夜であり東北地方が震源のため大きな不安に包まれました。最大震度は六強と大きく、被災された方々に深くお見舞い申し上げます、一日も早い復興をお祈り申し上げます。また、令和六年一月一日に発生した、「能登半島地震」も被害の甚大さにより今も多くの方が復興に尽力されており、改めて一日も早い復興をお祈り申し上げます。

昨年は、秋頃より熊が市街地で目撃されることが多くなり、県内でも人的な被害も発生しました。気象状況や自然環境の変化により熊の生態系にまで影響が出ていることは、近年の農作物の栽培環境の変化に感じていた不安と凶らずも一致するようです。

天候不順等による米の不作に端を発した、米不足により価格高騰となり、令和七年度産の米の買い入れ価格が軒並み上昇しましたが、「収入の増加による経営安定と素直に喜べない」と、生産者である組合員の皆様からの声も聞かれています。農業施策に関わる、大臣の交代により「猫の目のような農業政策」となることが無く、安心して農業に従事し、国民の皆様にも良質で安定した食料を供給できることが生産者全員の望みと思えます。

本年は午年であり、午（馬）は古より人々の暮らしを支え、特に農業には重要な役割を担ってきました。また、飛躍や前進の象徴で成長と成功を願うのに最適な年とされています。

最後となりますが、本年が会員の皆様にとって輝かしい年となりますようご祈念申し上げます。

サワッディピーマイカップ！／マイペンライ！！



福島県土地改良事業団体連合会

専務理事 家久来 克之

新年あけましておめでとございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

皆様、表題の二つの言葉のうち、“サワッディピーマイカップ”とはどのような言葉かご存じでしょうか。ご存じの方は、かなり東南アジアに精通されているものと思います。

この言葉はタイ語で「新年明けましておめでとございます（男性版）」となります。

ちなみに、女性版は“サワッディピーマイカー”です。（“カップ”は男性が話す際の丁寧語、“カー”は女性が話す際の丁寧語となります。）

なぜこのような言葉を知っているかと疑問に思われる方もおられるのではないのでしょうか。実は私、今から三十年程前、JICA長期派遣専門家としてタイの政府機関に「東部タイ農地保全計画」に取り組むプロジェクトチーム五名の一員として二年間赴任しており、二度新年を迎えるにあたり学んだ言葉となります。

ちなみに“ピーマイ”を除いた“サワッディカップ（カー）”は一番始めに覚えたタイ語で、“ワイ”をしながら発していました。「おはようございます」、「こんにちは」、「こんばんは」、「さようなら」など一日中使用することができる言葉です。

さて、本題はここから。もう一つの言葉“マイペンライ”は私にとって魔法の言葉となります。

タイに赴任後、タイ人同士の会話やプロジェクトに関する会議などの中で“マイペンライ”をたびたび耳にしました。通常業務は拙い英語での対応でしたが、タイ人同士の会話はもちろんタイ語、当たり前ですが、赴任当初は心に余裕がなく、日本人と過ごす時間ばかりでしたが、タイ語でもコミュニケーションがとれるようにとタイ語の意味を聞きまく

り、その中で最も感化された言葉がこの“マイペンライ”です。タイ人曰く、次のような場面で使うとのこと。

○どういたしまして……感謝された際の返事／返答

○気にしないで①……相手の失敗やミスに対し、「気にしないでいいよ」、「大丈夫だよ」と伝えるとき。（こちらが相手を気遣う、慰める際の言葉）

○気にしないで②……相手が心配していると察し、「気にしないで大丈夫」、「なんとかなるさ」と楽観的な気持ちを伝えるとき。（仕方がないだろうといったおらかな気持ち）

この中で感化された使い方が「気にしないで②」でした。使い方を知ったあとでも初めのころは「こっちは心配しているのに」との思いが先に立ち、受け止めることができるようになるまで少し時間はかかりましたが、自分が使いたすとその言葉の響きといい、その意味合いといい、困難や壁にぶち当たった時に自分を鼓舞する言葉、また他人を鼓舞する言葉として心の中で唱えております。

今年一年が希望と幸せに満ちた素晴らしい年となりますよう、皆様もそんな魔法の言葉を持ってみませんか。

なお、タイでの仕事の身や生活環境、あるいはアフターファイブなどは今回省きました。もし興味がありましたらいつでもお尋ねください。（アフターファイブって言葉、もしかして通じない？）

第49回総会

第49回総会は、令和7年8月25日（月）郡山市「ビッグパレットふくしま」において開催されました。

石川博利会長（伊達西根堰土地改良区）より挨拶があり、続いて特別功労者及び永年勤続者表彰が行われました。代表の方に会長より表彰状が授与され、併せて記念品が贈呈されました。



会長挨拶

表彰された方々は別頁のとおりです。受賞者の皆様の御健康と益々の御活躍をお祈りいたします。



来賓祝辞

表彰式後、来賓の福島県土地改良事業団体連合会会長齋藤善平様より祝辞をいただきました。
議長に石川会長が選出され、議事に入りました。

議案第1号「令和6年度事業報告

の承認について」、議案第2号「令和6年度収支決算の承認について」が一括議題として出され、事務局の説明、渡辺浩彰代表監査員（大玉土地改良区）の監査結果報告の後、承認されました。

議案第3号「令和7年度補正予算（案）について」、議案第4号「令和8年度会費・協賛金の額及び徴収方法（案）について」、議案第5号「令和8年度事業計画（案）について」、議案第6号「令和8年度収支予算（案）について」事務局の説明の後、承認されました。



業務研修会

業務研修会は、「水稻栽培からスマート農業について」を福島県農林水産部農業振興課齋藤隆主査にお話いただきました。



特別功労者・永年勤続者表彰

特別功労

会津若松市湊土地改良区

五十嵐 賢一

30年勤続

大玉土地改良区

渡邊 浩彰

安積疏水土地改良区

國分 英次

請戸川土地改良区

堀内 博明

愛谷堰土地改良区

菅波 孝光

福島県土地改良事業団体連合会

菊田 克彦

福島県土地改良事業団体連合会

坂内 智広

福島県土地改良事業団体連合会

渡辺 光則

20年勤続

安積疏水土地改良区

過足 祐次

阿武隈川上流土地改良区

中山 智子

雄国山麓土地改良区

渡部 和徳

10年勤続

安達疏水土地改良区

菅野 龍太郎

伊達西根堰土地改良区

今野 留美

会津中央土地改良区

佐藤 照之

戸ノ口堰土地改良区

五十嵐 龍也

雄国山麓土地改良区

齋藤 英

猪苗代町土地改良区

遠藤 勇樹

南相馬土地改良区

渡部 美香

福島県土地改良事業団体連合会

佐藤 亮

福島県土地改良事業団体連合会

中鉢 祥子

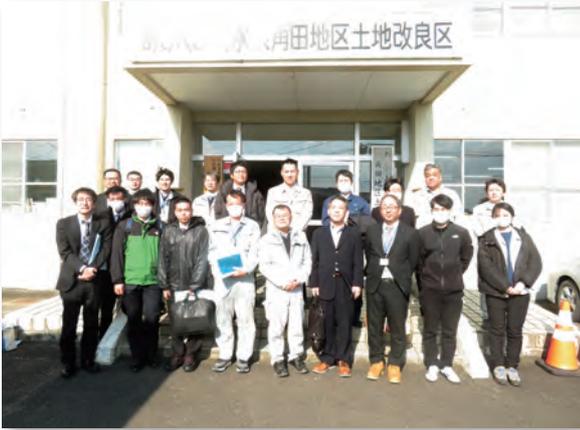


視察研修

県外の模範的な農業農村整備事業を視察研修し、県内の事業推進の参考とすることを目的とし視察研修を実施しております。

○令和6年度視察研修

令和7年2月26日(水)に参加者17名で、宮城県あぶくま川水系角田土地改良区で土地改良施設の維持管理等について研修し、排水機場を見学しました。



○令和7年度視察研修
令和7年11月13日(木)～14日(金)に参加者32名で、山形県白鷹町土地改良区と南東北クボタ山形エリア事業所でスマート農業の取り組みや研究・技術開発について研修しました。



永年勤続

勤続20年

阿武隈川上流土地改良区
中山 智子

月日が流れるのは早いもので、永年勤続20年の表彰を頂きました。これもお世話になった改良区の役員・総代・組合員さん、前局長と相山主任、西郷ダム関係各所の皆さま、そして家族のお陰と感謝の気持ちを新たにしております。

今年土地改良法の改正があり、土地改良区は水土里ビジョンという新しい課題との遭遇の年になりました。戦後80年の節目の年でもあり、土地改良の歴史を振り返るタイムミン

グでもあったように思います。昭和52年生まれの私は両親が世界大戦サバイバーで、実家の祖父は

赤道直下のナウルで終戦を迎えました。本国からの補給船が来なくなつてからは南瓜や芋を作りダイナマイトで魚を獲って喰いつないだとい祖父の戦争体験談は冒険のような話ばかりでしたが、実際は捕虜になりマリアアで生死の境を彷徨いながらの復員だったと知ったのはお葬式の時でした。長く改良区の役を務め、用足しに出かけることが多い祖父でしたが、西郷ダム起工50周年記念紙の編集委員にも加わりダム建設が地域にとってどんなに悲願で有難いことだったかを記録に残し、平成の大改修と銘打った県営事業を取付けて理事長退任。私に改良区と縁づけてくれたのもこの祖父でした。

母方の祖父は硫黄島から病気のため戦況が悪くなる直前に最終の連絡船に乗せられ帰って来られました。が、先祖が猫啼堰を作り水路を引いた耕地の多くを戦後の農地解放で失い、残った田畑を守りながら遺骨収集にも参加し毎朝戦友のために祈った生涯でした。終戦の日が来る度に、私は命あることの有難さと生きていく意味を考えます。

昭和25年生まれの父と昭和26年生まれの母は、次女の私が産まれた年に6軒の農家と農事組合法人を作り農業構造改善事業で大型ハウスを建て、キュウリ・トマトの施設栽培を始めました。産地として認識してもらえらるまで適正な値段で取引してくれる市場を探し歩き、それぞれ大変な紆余曲折がありながらも助け合つて償還金を返済し、両親は私達三姉妹を男に頼らずとも生きられるようにと教育してくれました。自立力があり過ぎた姉と妹は結婚せず、今は私の主人が施設を引き継いで農家をしてきています。

そんな主人（農業指導士53歳）が今朝の新聞一面を見て「世の中色々あるけど、みんな安心して食べていければ良いだけのね」と言いました。奇しくも今日はお釈迦さまが悟りを開かれた日。どんな不安があっても、食べられれば生きていく。令和の米騒動で食と農への注目が集まりましたが、農地解放からまた集約化されつつある農地が新たな食の安全保障を担えるよう、先人への感謝の気持ちを忘れず微力ながら私も頑張らせていただこうと気持ちを引き締めました。

来年度、西郷ダムは令和の大改修の計画策定に入ります。会員の皆さまにとつての諸々と共にウマク進み

ますようお願い申し上げます。

勤続30年を迎えて

大玉土地改良区
渡邊 浩 彰

このたびは永年勤続表彰を頂き誠にありがとうございます。30年間勤務できたのも、皆様方のご指導とご協力のおかげで、大変光栄であり感謝申し上げます。

私の実家は田んぼや畑を所有しておらず、小さいころから農業に触れる機会がほとんどないまま大玉土地改良区に就職いたしました。「大玉村」出身ですので、周辺には田んぼが一面に広がり、近所は農家の方ばかりでしたが、まさか自分が農業関連の道に携わることになろうとは夢にも思いませんでした。その農家の皆様とのお付き合いの中で、ご縁があつて土地改良区に勤めることになったのは、私の人生を大きく変えた奇跡の出来事だと思います。

若かりし頃を振り返ると、組合員のじいちゃん達と話すときは、福島訛りが強すぎて、まるで外国人と会話しているようで、とても苦勞したことを思い出します。事務所に来るたくさんの方の人生経験が豊富な組合員の皆様方と、お茶をすすり、また、酒を酌み交わし、仕事以外のことも色々と勉強させていただき、今まで何とか勤めることができました。

あれから30年。私も経験豊富な年代に差し掛かり、今度は後輩に伝える立場になりました。30年という時間、皆さんはどう感じますか？人によって感じ方は様々だと思いますが、私自身30年を振り返ると、まさに「光陰矢の如し」であり、時間があつという間に過ぎ去った感じがす。しかし、感じ方はあつという間でも、歩いてきた道のりは意外としつかり残っておりまして。それは「手帳」です。今の時代、スマホで予定を管理されている方も多いと思いますが、私は、毎年同じメモカールの同じ手帳を買って日々の行事や出来事を記載しております。大した内容を書いてありません。しかし、その手帳も今年で31冊目になりました。土地改良区の職員として過ごしてきた足あとが刻まれております。今後も今まで同様、自分のできることを、1ページ、1ページ、着実に

歩んでいきたいと思えます。会員の皆さん、時間は全ての人が平等に与えられております。思い返したときに素敵な記憶が残るような有意義な時間を過ごされますようお願いいたします。



新年、明けましておめでとうございます。昨年は永年勤続表彰を頂きありがとうございます。

平成5年から縁あって請戸川土地改良区へ就職。それから多くの皆様にご指導・ご支援を頂き何とか30年を迎える事ができました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

当時は農業に関して全くの素人。代掻き？くろぬり？畦畔？日常会話に出てくる言葉の意味も解らず毎日現場に出て奮闘する日々で、現場は基本山間部ばかりで作業着は毎

日よこれ、会うのは鳥獣動物ばかり。町内で仕事をする友人を羨ましく思っている、土地改良区を辞めたいと考える時期もありましたが、稀にリスやムササビを見かけると、その日1日楽しく過ごせた事も思い出します。

私は旧請戸川土地改良区で国・県営で造成された土地改良施設の維持管理を主として業務に携わっておりましたが、在職から5年目の平成9年10月に旧小高町・浪江町・双葉町・請戸川の四つの土地改良区が合併し、新たな請戸川土地改良区となり、ほ場整備事業も担当する事となりました。先祖代々受け継いだ農地が整備され新たな場所へ換地を受けることへの抵抗が強い組合員もいらつしゃつたため、朝晩自宅に訪問し説得して歩いた日々を思い出します。

2011年3月に発生した東日本大震災においては津波・原発事故の影響により避難生活を余儀なくされ、4月には職員全員が退職。通常では経験することのない日々を過ごし、週末ごとに避難先である福島・東京間を車で移動した事を今でも時々折思い出します。

事務所が再開し請戸川土地改良区へ復帰してからは、復興・営農再開に向けてほ場整備事業の嵐です。現在、実施地区は10地区あり、9名の職員と市から派遣職員1名の総勢10

名で日々奮闘しております。私以外の職員は震災後に採用となった職員ですが、今はほ場整備のプロとして活躍しており、私も色々と助けて頂き地区を担当している状況です。

震災から間もなく15年が経過しますが、復興への道のりは途中でありますが、これからも一歩一歩前へ進み、浜通り地域の農業復興に寄与して行きたいと考えておりますので、今後とも請戸川土地改良区をよろしくお願いたします。



新年明けましておめでとうございます。

今回は勤続10年の節目に永年勤続表彰という形で表彰いただきありがとうございます。

早いもので私が土地改良区の職員として働き10年もの時が経つたんだ

など感慨深く感じております。

私は中途採用で土地改良区に勤め始めたのですが、元々は土木業界で働いており実家も農業を行っておらず、土地改良区という組織が何をやっているのかも知らなかったんです。

初めての事務作業、組合員の皆さんへの対応、用水施設の点検、整備など今までの生活では触れて来なかった事だらけで今後この仕事を続けて行けるのだろうかと不安に思う毎日でしたが、過ぎ去ってみればあつという間の10年間でした。

毎年のかんがい用水期間が始まると今年も何事もなく順調な送水が出るればいいな、今年は渇水になるのだろうか、それとも台風が発生するのだろうか、災害が起こったりしないといいな、などと気象情報をこまめにチェックする事が増えそれが生活の一部になりました。

また、プライベートで出かけている際にも今まで気に留めなかった地域の用水施設の状態や形状、田の耕作状況や苗の地域ごとの生育状況など土地改良区に勤めるようになってから風景の見え方が変わったのを感じます。

この用水路にはたくさん水が流れているけれど、どこが水源になっているんだらうか、この施設は使い勝手が良いさそうだけど管理や設置に

どのくらいの費用が掛かるんだらうなんて不意に思う事もありました。

今回の執筆にあたって改めて考えると勤める以前の自分とは変化している部分が多々発見できて新鮮な気持ちになりましたね。

今後も勤続年数を重ねていくたびに様々な変化が訪れるのだと思いますが、また10年たった際に自分がどんな変化を迎えているのか今の自分と比較して成長していることを願い、受益者や関係各所の皆さまにご指導ご鞭撻を頂きながら精進して行きたいと思えますのでよろしくお願いたします。

最後に、これからの各土地改良区及び連合会並びに農業農村整備関係各所の発展と皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



勤続10年を迎えて

戸ノ口堰土地改良区
五十嵐 龍也

この度は10年勤続表彰をいただきありがとうございます。

土地改良事業についても農業についても知識のない中で戸ノ口堰土地改良区に採用していただき、改良区の役職員の皆様、組合員の方々や関係する皆様にご指導、お力添え頂いたおかげでなんとか勤続10年を迎えることができました。

業務は主に一般工事と水利業務を中心に行ってきました。この10年の間にも大雨災害の多発や大雪、猛暑等があり気候も大きく変わったと思います。前年通りの通水操作ではうまくいかないことも多く、先人たちが通水を持ってきたこと、組合員の方々が代々耕作を続けていることが当たり前ではなく努力と工夫の上で成り立っているのだと感じています。

職員となり節目の10年を迎えまし

た。改良区の先輩方には物覚えの悪い私を社会人として人として育てていただいていることに感謝し、少しでも皆様のお役に立てるよう精進したいと思えます。

最後となりますが、会員の皆様とも研修会等でお会いできると思えますので皆様とお話しする機会を楽しみにしながら本協議会並びに会員の皆様のご多幸を願い結びと致します。

10年勤続を振り返って

会津中央土地改良区
佐藤 照之

この度は勤続表彰を頂き誠にありがとうございます。10年前に「新会員のみなさんより」に寄稿した年から10年経過したということですが、まったく実感がありません。これまで勤めてこられたのも、土地改良区職員の皆様はじめ関係機関及び組合員の皆様のお力添えのおかげと

感じております。

さて、現在では仕事の癖で施設が目に入ると「どこから取水しているのか」「転倒堰があるから排水を用水転換しているのか」と考えてしまいます。

しかし土地改良区に勤めるまでは田んぼの「た」の字もわからない状況でした。幼い頃、祖母の手伝いで田んぼの端に残った稲の刈り取りや春先に頼まれて種まきの手伝いをするくらいのため水路の水など特に気にしたことはありませんでした。

そのため改良区へ入所してからは用水管理のため施設の場所や水系を覚えることからでした。その中でも大変だったのが組合員とのやり取りでした。電話にて調整依頼が来ても場所が分からず組合員へ近くの目印を聞いても「周り田んぼなので無い」と返され、現場回るのにも一苦労でした。そんな私でも10年という月日の中で、ようやく自分なりのマニュアルが確立されたと思います。現場でも入所して数年は組合員からの要望の話を聞くだけだったのが、雑談も交えられるようになり、顔を覚えてもらえてきたのかなと感じます。

話は変わりますが、私が入所した時に始まった事業の国営かんがい事業が先月下旬に完工式を迎えました。施設の更新により一部施設の電

動化や水量系が復活したことで用水調整の負担が軽減されました。組合員の皆様へ安定した用水供給ができるよう頑張っていきたいと思っております。

最後になりますが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。拙い文章ですが、お読みいただき、ありがとうございます。



この度は、永年勤続30年の表彰を賜り、誠に光栄に存じます。厚く御礼申し上げます。

私は平成6年4月、前事務局長の急逝に伴い、中途採用という形で当改良区へ奉職いたしました。引き続きもない中で門出でしたが、それゆえに「愛谷堰土地改良区はどうあるべきか」を常に自問自答し、手探りで今日まで歩んで参りました。組

合員の皆様、役員、関係機関の方々からの温かいご支援に支えられた30年間を振り返り、その歩みを記させていただきます。

土地改良区の職務は、大きく二つに集約されると考えております。

一つ目は、認可法人としての「組織運営基盤の強化（事務系）」です。規程の整備、理事の執行体制や総代の役割の明確化、未収賦課金の解消、財政の健全化、さらには職員の処遇改善など、組織の体質強化に邁進して参りました。

二つ目は、「土地改良事業及び施設管理の適正化（技術系）」です。施設の補修・改修による農業用水の安定供給、地元の合意形成に基づく現場整備の推進、そして現在は多面的機能支払交付金事業への積極的な参画を図っております。

特に当区は、受益面積に対して施設規模が大きく、維持管理費が課題となります。将来の負担軽減を見据え、「土地改良区直営施工」を取り入れることが最善であると判断し、実践して参りました。

これまでの具体的な取り組みとしては、以下の点が挙げられます。

- 賦課金・使用料の長期連続完納（平成7・9年度より継続中）
- 経常賦課金の据え置き（平成元年度より3,000円を維持）と夫

役現品の実質廃止

• 財政健全化（各種積立金の創設、複式簿記への移行）

• 直営施工能力の向上（一級土木施工管理技士等の資格取得、多岐にわたる工種の自前施工）

• 多面的機能支払交付金事業の広域組織化（平成19年度）

私の信条は、「給料以上の成果を出し地域に貢献すること」「知恵を出し汗をかけば、仕事に苦労などなく、課題は必ず解決できる」ということです。また、共に働く仲間を敬い、家族の理解があつてこそ、より高みを目指す仕事ができると確信しております。

目指すのは、「愛谷堰土地改良区が地域にあつてよかった、組合員でよかった」と一人でも多くの方に言っていただけの組織です。

65歳まで残り7年。微力ではございますが、今後も地域農業のさらなる発展のために尽力して参る所存です。皆様方の尚一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。御礼の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございます。

勤続30年を迎えて

水土里ネット福島
菊田 克彦

このたびは永年勤続表彰をいただき、誠にありがとうございます。

平成6年の採用以来、30年という節目を迎えることができましたのも、これまでご指導・ご支援くださった諸先輩方、そして関係者の皆様のおかげであり、心より深く感謝申し上げます。

振り返ってみると、さまざまな現場で多くの方々に支えられながら歩んできた30年であったと、感慨深く感じております。

私が従事してきた業務の大半は、ほ場整備事業に関わるものでした。入会当時は先輩方から「ほ場整備の仕事はいずれ一区切りを迎え、時代とともに役割も変わっていくだろう」と教えられたことを今でも覚えています。当時は、担い手育成型ほ場整備事業が盛んに行われており、

一定の整備が進めば需要は落ち着くものだと私自身も疑うことなく思っておりました。

ところがその後、ウルグアイ・ラウンド農業合意関連対策、農業者の高齢化や担い手不足、営農形態の変化、さらには自然災害の激甚化など、農業や地域を取り巻く環境は大きく変わりました。将来の営農管理や国内生産の農地保全まで見据えた基盤整備の重要性は、以前にも増して高まっております。ほ場整備事業への期待もますます大きくなっていると感じております。

ほ場整備は、単に農地を整えるだけでなく、地域農業の未来を支える基盤づくりそのものです。地権者の皆様や地域の方々との向き合いながら、一つ一つ合意を積み重ねていく中で、この仕事の重みとやりがいを感じてまいりました。

30年という節目を迎え、これまでの経験を土地改良事業のさらなる発展と地域貢献に役立てられるよう、微力ながら取り組んでいきたいと思っております。

私生活では、かつて嗜んでいた自動車レースの再開を夢見つつ、父の後を継いで水稻栽培に挑戦しようと考えております。

最後になりますが、本年が皆様にとりまして輝かしい年となりますことを祈念するとともに、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。感謝の挨拶といたします。

30年を振り返って

水土里ネット福島
坂内 智広

この度は、勤続30年という大きな節目にあたり、身に余る光栄な表彰をいただき、心より感謝申し上げます。

30年前、期待と緊張の中で本会に採用され、最初に配属されたのが指導課でした。当時の私にとって、土地改良区の運営の支援や指導を行う業務は非常に専門性が高く、諸先輩方の背中を追いかけながら必死に知識を吸収する毎日でした。各地の土地改良区を訪問し、職員の皆様と向き合いながら、現場の課題を一つひとつ解決していくことの難しさと大切さを学びました。

振り返れば、度重なる法改正や、厳しい農業情勢の中で、変化の激し

とを祈念するとともに、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。感謝の挨拶といたします。

い30年でした。しかし、どのような時も土地改良事業団体連合会の使命を胸に、今日まで歩んでまいりました。指導課での経験を礎に、各部署で積み重ねた経験は、私にとってかけがえない財産です。

今日まで大過なく勤め上げられましたのは、ご指導いただいた上司、同僚、そして温かく支えてくれた家族のおかげです。

この30年を通過点とし、これからも培った経験を活かして、連合会の発展と地域農業の振興に尽力してまいる所存です。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

現在は、福島県土地改良団体職員連絡協議会の事務局として、県内各土地改良区の職員の皆様を繋ぐ役割を担っております。会員の皆様には、これらの諸事業への積極的なご参画をいただきますとともに、事務局運営ならびに事業活動へ取り組みに対しまして、引き続き、温かいご指導とご協力を賜りますよう、併せてお願いを申し上げます。





年男・年女



時代は若者ファースト

水土里ネット福島

元村 雅 登

施設管理課第三班、元村です。会
員支援担当として県内80区の土地改
良区に日々回っておりますが、訪問
先で最近、「おや、ここにもある」
とよく見るものがあります。各土地
改良区の発行する「新卒者募集チラ
シ」です。どこも皆、苦勞されてい
るのだなあとそのチラシを眺めつつ
思いました。

実はこの悩み、土地改良区だけに
限ったことではないようです。「新
人獲得術」「Z世代をつなぎ止める
方法」「中途退職が頻発する組織の
特徴」というタイトルが、YouTube
動画界にもあふれております。その
中には若者を揶揄する見るに堪えな
い動画もありますが、一方で、これ

はと感心する動画もあります。中で
も坂井風太氏の動画『20代はこの会
社で自分のキャリアの安全性が担保
されるかを考えている』には、視聴
後かなり考えさせられるものがあり
ましたので少し紹介します。

私と同年代の皆さんの中には、若
者の中途退職が多いのは根性がない
から、苦勞を知らないからと思っ
ている人がいるようです。「退職の
職場への連絡も親にさせる」「退職
代行サービスを使う」こんな奴らは
人として逸脱している。まあ、現象
面だけ見るとそう思えてしまう気持
ちもわかります。しかし、この動画
を見ると少し考えが変わります。

彼ら若者たちは、学生時代（いや
生まれたときから）企業側には終身
雇用は期待できない、いや期待する
な、と言いつけられてきた世代です。
就職先を見つけてもその職場で安
住、つまり生活維持は約束されない。

そんなとき、頼れるのは「身一つ」、
つまり自分のスキル向上しかありま
せん。つまり彼らにとって「仕事が
スキルアップに直結しなければ」死
活問題なのです。生産性のない作
業・会議に時間を使うのはまっぴら
ごめんなのです。先輩の「俺たちは
我慢して育った」も通じません。
断っておきますが、若者にも多種多
様な人が存在することは前提です。
のんびり働き週末を楽しむ人もいま
す。ここでは、「そういう考えの人
が、他の世代より多くいる」と捉
えてください。

「この職場で働き続けていて真の
キャリアアップは見込めるか」これ
を坂井氏は「キャリアの安全性」と
呼び、職場の先輩を見て「私もここ
に居て自分を磨こう。そして彼のよ
うになろう」となれば「安全性」が
高く、「あの先輩のようになったら、
もうどの会社に転職しても通用しな
くなる」となれば、徐々に転職を考
え始めるのだそうです。つまり、職
場の先輩の有り様が、若者の職場定
着率に影響しているという恐ろしい
事実を知り、少し背筋が寒くなりま
した。

残った職場人生において若い人か
ら「彼のようにになりたい」と思える

人になるよう、私も日々自己研鑽を
怠らず、そしていつも高い目標をめ
ざして若者に負けずチャレンジを続
けたいと思っております。あと少し
の間、どうぞよろしく願います。

健康第一 3度目の年男

会津宮川土地改良区

邊 見 知 弘

新年明けましておめでとうござい
ます。本年もよろしく願いました
ます。午年の年男ということ「む
つみ」の執筆依頼がありましたので、
まだまだ未熟者ですが執筆させ
ていただきます。

令和4年4月に会津宮川土地改良
区で採用され、早いもので4年が過
ぎます。私は、スポーツが好きで学
生時代から卓球、社会人からバドミ
ントンとスノーボード、バレーボー
ルを始めました。20代の気持ちで動
いていますが、身体は正直で年相応
でした。

元々身体が硬いのとストレッチを
怠っていたせいで、令和6年の7月
に腰椎椎間板ヘルニアになりました。
た。腰椎椎間板ヘルニアになってか

らはスポーツができず、保存療法を行う日々でした。療期間中は楽しみだったスポーツができず、早く良くなれないかなと思っていました。が、3ヶ月を過ぎてても良くなりならず、状況はさらに悪化し、左足の動きが悪くなってきました。完治するには手術しかないと言われ、一ヶ月程度の休みをいただき、令和6年10月に腰椎椎間板ヘルニア摘出手術を行いました。手術後は無理をせずリハビリを送る日々でした。お休みをいただいた期間、職場の皆様にご迷惑をお掛けしました。

手術後半年ほどで、腰椎椎間板ヘルニアは完治し、再びスポーツができるようになりました。運動前後にはストレッチを行い、気をつけていました。夏までは何事もなく楽しくスポーツができていましたが、秋になり肩に違和感がありました。腕を振ると肩の神経に痛みが出て、令和7年10月に五十肩と診断されました。身体全体を使わず、一部にのみ負荷がかかっていたためだと思いましたが。現在は、まだ肩の痛みはありますが、肩を温めたり、ストレッチを行ったりして無理のないようにスポーツをしています。

令和8年は年男ということもあり

り、健康第一で無事に年を越したいと思えます。読んでいただいた方も他人事と思わず、健康第一で過ごしていただきたいと思えます。仕事面では、まだまだ未熟者ですが、1日でも早く当改良区や組合員の皆様の役に立てるよう一生懸命頑張りますので、これからもご指導の程よろしくお願い致します。

年女

福島市土地改良区

笹木美沙

新年明けましておめでとうございます。私は令和5年7月より福島市土地改良区へ採用され3年目となりました。今回、年女との事で執筆依頼を受け、改めて自分の年齢を再確認したところであります。

福島市土地改良区に勤務し、初めて聞く言葉や分からないことだらけの中、徐々に分かる事が増えていき業務に携わり3年目を迎える事ができましたのも、偏に諸先輩や役員の方々のご指導があったからだとか心から感謝申し上げます。大変お世話になりました。

さて、今年の干支は「午」となり

ますが、2026年は60年に一度の「丙（ひのえ）」と「午」が組み合わせられた「丙午（ひのえうま）」の年です。火の性質を持つ「丙」と「午」が重なり、強いエネルギーで道を切り開き、物事が大きく発展する縁起の良い年とされているそうです。

私ごとではありますが、昨年12月にはインフルエンザB型にかかり、ワクチンを接種し対策をしていますが防ぎようがないことがあるなど実感しました。

2026年は体調管理をより徹底し、丙午のごとくウイルスも災いも強いエネルギーで跳ね除け、様々なことにチャレンジして行く年に出来たらと思います。物事が大きく発展する縁起の良い年でもありますので、新しいチャレンジをしていきたいと思えます。何かと新しいことにチャレンジする際には尻込みをしまいがちですが、幾つになっても挑戦し、現状維持ではなく向上心を持ち仕事もプライベートも充実した年にしたいと思います。

軽やかに駆ける

磐城小川江筋土地改良区

長瀬麻裕香

新しい年が巡り、今年も年女となりました。12年に一度の干支の巡りは、まるで「リセットボタン」を押して、新しい気持ちでスタートを切るチャンスを与えてくれたように感じます。

午のイメージである、明るく前向きで、力強く進んでいくエネルギーをいただき、この1年を大切に過ごしたいと思えます。

12年前の午年を迎えた時のこと、今でも鮮明に覚えています。当時の私は2人目の出産を間近に控え、まさに子育てという人生最大の愛情レースの真っ只中でした。毎日がめまぐるしく過ぎ去り、社会から離れた場所でも、わが子の成長だけを見つめていました。あの頃の「走り」は、とにかく必死で目の前の子どもたちのために、ただただ献身的に動く。自分のことよりも家族の笑顔が何よりも大切だということを実感した、温かく、かけがえのない時間でした。そして今、子供たちはすくすくと育ち、私も社会に復帰して数年が経ち

ました。あの時の子育て経験は、今の私の大きな土台となっています。例えば、限られた時間でやりきる「切り替えの速さ」や、予期せぬトラブルにも動じない「お母さんの対応力」は、今の仕事で思わぬ強みになっていると感じています。

年女として迎えるこの1年は、過去の経験を活かしつつ、さらに一歩踏み込んだ挑戦をしたいと考えています。具体的な抱負は二つあります。

一つ目は「感謝の気持ちを力に変える」ことです。子育てと仕事の両立は決して一人ではできません。家族の支え、そして職場の皆さんの温かい理解と協力があって、初めて成り立っています。今年はその感謝の気持ちを忘れず行動で示していきたい。困っている人がいれば過去の経験から得た知恵を共有したり、積極的にサポートに回ったり、私自身が皆さんの「力」となることで恩返しをしたいと思っています。

二つ目は、「目標を軽やかに乗り越えるしなやかさ」を持つことです。午は力強いだけでなく優雅でしなやかな動きも魅力です。今年には堅苦しくなりすぎず、楽しみながら新しいスキルや知識を習得していきたい

いです。無理なく、でも着実にチャレンジし、自分らしいペースで成長の跡を残していきたいと考えています。

この1年が家族にも職場にも、そして自分自身にも、温かい光を注げる1年となりますように。力強さだけでなく親しみやすさと感謝の心を持ち、目標を見失わずに軽やかに前進し続けていきたいと思えます。

48歳の目標

安積疏水土地改良区

吉田 功

今年、48歳となり、午年の年男を迎えました。正直なところ、これまで干支を強く意識したことはありませんでしたが、この年齢になって初めて「午年ってどんな年だろう」と考えるようになりました。調べてみると、午年は行動力や前向きな変化を意味する年だそうで、なかなか悪くないなと思っています。

若いころは、システムエンジニアとしてシステム開発や通信の仕事に関わり、目の前の課題をどう解決するかに必死でした。今振り返ると、その経験のおかげで、物事を理屈で

考えたり、全体の流れを意識したりする癖が自然と身についたように思えます。その後、電気主任技術者として電気設備の管理に携わり、「止めないこと」「事故を起こさないこと」の重みを現場で学びました。そして現在は、電気主任技術者としての業務を続けながら、水利課で配水という、農業には必要不可欠なインフラを支える仕事に関わっています。

日々の業務は目立つものではありませんが、水が安定して届くこと、地域の農業や暮らしを支えていると実感する場面も多くあります。こうした現場に関われていることを、今はずっともありがたく感じています。

これまでやってきたことを並べてみると、分野は違っても、どれも「当たり前を当たり前を守る」仕事だったと感じます。若いころのように勢いだけで突っ走れることはできませんが、その分、経験を活かし、周りと協力しながら取り組んでいきたいと思えます。

48歳の目標は、頑張り過ぎないことと、立ち止まらないこと。午年の馬にあやかり、目標を見失わずに、一歩一歩着実に前へ進みながら、こ

れまでの経験を活かして効率よく若い人たちの力になっていきたいと思っています。

年女ですが、年齢確認から始まりました

水土里ネット福島

伊藤 香奈子

11月に「年女」として寄稿のご依頼をいただきました。

読んだ瞬間、真っ先に浮かんだのは「……え、私、いま何歳？」という、あまりにも素朴な疑問でした。

私は12月生まれです。つまり、干支としては年女ではあるものの、年齢はまだ追いついていない状態。干支はスタンバイOK、本人だけが誕生日待ちという、なんとも中途半端な立ち位置です。

指を折り、カレンダーを確認し、最終的にはスマートフォンまで動員して、ようやく自分の年齢を把握しました。原稿を書く前に、まず年齢確認から始まるとは、思ってもみませんでした。

年齢も気持ちも無事に整理できたところで、改めまして、新年おめでとうございます。

さて、以前寄稿させていただいたのは、私が職員として採用された年のことでした。節目の年にこのような機会をいただき、何を書こうかと悩みながらも、拙いながら精一杯原稿に向き合ったことを覚えていません。

当時、小学生だった息子は「じいちゃんとのんびり農業をしたい」と話していました。それが今では高校生となり、工業系へ進学し、ロボットやクルマに夢中になっています。部活動や技術系の大会に励む姿を、夫婦で観戦することが、私たちにとって大きな楽しみとなりました。

家では専門用語を並べて熱心に語ってくれますが、正直なところ、母はほとんど理解できていません。相づちは、ほぼ雰囲気です。

それでも、目を輝かせて話す姿から、周囲の支えの中で大きく成長してきたことを感じ、感慨深い思いになります。

息子の成長と同じように、私自身も職場で多くのことを学ばせていただきました。採用当初は目の前の仕事をこなすことで精一杯でしたが、失敗や戸惑いを重ねるたびに、上司や先輩、同僚の皆さんに支えていただき、今日まで続けていくことができ

きました。

日々何気なく交わす言葉や助言、さりげないフォローの一つ一つに、心から感謝しています。

午年の1年、健康を第一に、これまでにいただいたご縁への感謝を忘れず、自分の歩幅で前へ進んでいきたいと思っています。

皆様にとって、足取り軽く、健やかに駆け抜けられる1年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

新たな年男を迎えて

高郷土地改良区

後藤 学

年明けで4回目の年男を迎えることとなります。12年前の寄稿依頼を受けてからもうまた自分の干支になったのかと正直思っております。月日が経つのは早いとはよく言いますが、前回の12年のサイクルよりも2倍速ぐらい早く感じているところがあります。

さて、新たな節目を迎え12年間を振り返り、会計面では業務に複式簿記が導入された他、新規採択事業の取組、女性理事の創設、水土里ビジョンの取組等も含め新しい取組が

増えた事により、時代の変化や多様性と共に業務の成り立ちも変革してきたように思います。通常業務に加えこれまで以上に日々の研鑽が大切であると痛切に感じておるところであります。

一方で地域で取り組む活動組織も多岐にわたり、地域消防団や体育協会役員等新たな活動も増え地域に貢献していく事も増えました。中でも当町で地域ごとに取り組んでおります中山間地域直接支払制度や多面的機能支払交付金制度における小規模工事において、工種選定や材料の調達など各地区からの相談を受け、これまで当区で培ってきた工事経験を基に的確な相談が出来たかと存じます。

当町では人口減少と共に担い手不足による耕作放棄地も顕著化し始めてきております。これまで以上に地域計画での役割や水土里ビジョンの取組が今後の当地区の農業発展に影響を及ぼすことと存じますので、勉強会や情報交換等を重ね懸命に取り組んでいきたいと存じます。

最後になりますがアラフィフになり筋力の衰えを物凄く感じております。11月の文化祭企画で体育協会主催の体力測定を実施しましたが、愕

然とした結果でありました。なのでトレーニングにより筋力も少しずつ回復を計り、健康にも特に注意していきたいと存じます。





以前の職場になりますが、5年ほど在籍しました町産業課（現在の農政課）では、補助事業に携わり、認定農業者や専業農家の皆さんに蔬菜用ハウスの整備や農業機械の導入など、水田農業確立対策転作事業による農業生産向上のお手伝いをさせていただきました。今では、経営者の高齢化や担い手不足により、農業法人や企業化した専業農家による農地の集約的な活用が進み、農業経営に対する考え方も大分変わったと思います。

また、同時期には圃場整備事業が行われ、同僚の皆さんが図面を広げ、長時間にわたり膨大なデスクワークに追われる中、地権者の換地処分や清算処理に関する協議など多忙を極めておられました。承継資産としての圃場は重要視されていたため、個々の状況に応じ合意を得ることは難しく、ようやく事業も完了間近となった担当者が、完成図書を読み直しと見直していた姿が記憶に残っています。

その後、市町村合併が進み従事していた業務が軌道に乗りかけた頃、東日本大震災により藤沼湖が決壊し多数の犠牲者や様々に被害が及び多くの人々の哀しみや喪失感は計り知

れないものだったと思います。被災以来14年が経過する中、再び地域農業の大切な役割を担う藤沼湖のこれからの思いを巡らせ、貢献させていただける機会に恵まれたことを有難く思っております。

土地改良区業務に関しましては未経験でありますので、初心にかえり職場の皆様からのご指導の下、安全安心な藤沼湖の灌漑用水管理やこのことに伴う維持業務に携わらせていただき、役目を果たしてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、不慣れな点も多く至らないことも多々あるうかと思いますが、ご指導くださいますようよろしくお願い申し上げます。

土地改良区に勤務して

江花川沿岸土地改良区

水落 勝幸

会員の皆様、はじめまして、水落勝幸と申します。令和7年4月より江花川沿岸土地改良区にお世話になっております。どうぞよろしくお願いたします。

私は市役所を定年退職し、新たな気持ちで第2の人生を歩もうと、現在の職場に勤務させていただいております。

よろしくお願いたします

請戸川土地改良区

佐藤 弘子

令和7年4月より、請戸川土地改良区に勤務しております佐藤弘子と申します。伊達市出身です。伊達市に住んでおりましたが、平成23年3月の東日本大震災及びその後の原子力災害がきっかけとなり、相双地区

で働くようになりました。

震災後、復旧・復興、生活再建のために、福島県の誰もが頑張っていました。全国各地からたくさんの方の応援をいただいていたこともあり、さらに、自分自身の子育てが一段落したこともあって、微力ながら何か貢献したいと、平成28年度より飯館村役場の任期付職員として5年間勤務しました。自治体の勤務は未経験でしたが、配属された復興対策課では、課長や周りの方に支えられ、何とか業務をこなし、楽しく勤務することができました。ここで初めて「土地改良区」という団体を知ることになりました。同じ部署内に飯館村土地改良区があり、職員の方に色々と教えていただき、親しくしていただいたことを今でも覚えています。

飯館村役場で5年間勤務したのち、令和3年度より南相馬市役所の任期付職員として請戸川土地改良区へ派遣され、南相馬市小高区の基盤整備事業に関わる業務を4年間勉強させていただきました。土地改良区職員となってまだ9か月ですが、請戸川土地改良区では4年9か月間お世話になっており、現在も、南相馬市小高区の基盤整備事業を担当して

おります。

その中でも、換地業務は、地区の換地委員が中心となり、住民の大切な財産の土地を、住民の皆さんが納得するような配反を計画していかなければなりません。責任も重大ですが、これを成し遂げ換地処分が行われた時の達成感は大きいと思います。

しかしながら、土地改良区の業務は多岐広範囲にわたり、まだまだ知らないことは多いです。皆様のご指導をいただきながら、農家の皆さんのお役に立てるよう日々の業務に励んでまいりたいと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

宜しくお願い致します。

棚倉町土地改良区

松本 輝也

会員の皆様はじめまして、令和7年4月から「棚倉町土地改良区」に勤めている松本輝也と申します。宜しく御願致します。

元々は10年近くサービズ業を務めておりました。今回、縁があり棚倉

町土地改良区に勤める事になりました。

私は福島県棚倉町の出身で水田に囲まれた環境で育ちました。実家は米農家で、種蒔きから稲刈まで私も手伝う事が多く最初は小さい頃は嫌々手伝っていましたが、年を重ねるにつれ農業に対する向き合い方が変わり、農業の大切さを学びました。今は米農家を辞めてしまいましたが、畑で細々と野菜の農作を行なっております。また、地元の保全会活動や草刈等の活動にも積極的に参加をし、少しでも地元貢献出来ればと思います。

前職のお話をさせて頂きますとゴルフ場内のレストランでウェイターをやっておりました。昼は毎日100名以上のお客様との接客と夜はディナーの対応しておりました。人と接する職業であり顔と名前を覚えることが多かったのですが、土地改良区の組合員や役員と接する際や組合員の顔と名前を覚えるのに役に立っていると思います。毎日が違う条件で営業するので大変な日もありましたが、人と接するのが好きな私としては楽しく仕事をしていった思い出があります。前職との共通点として土地改良区の業務は人と深く接する職

業だと思いました。組合員との相談や業者との現場立会等、様々な方と関わりながら進めていく重要さは前職と同じだと実感しました。その関わりを大切にし、今後の業務に取り組みたいと思います。

入職する前までは土地改良区という言葉を聞いた事が無く、賦課金を支払っている事自体知りませんでした。どのような職業なのかも全く分からない状況でしたが地域の方々や家族の応援もあり入職を決意しました。

入職当初は前職と全く違う職務内容なのと分からない事ばかりで苦慮しました。8カ月が経ち先輩方の御指導により少しずつではありますが覚えてきたと思います。まだまだ足りない点もありますが精進して参りたいと思います。

この職業となつてから様々な組合員から相談を受けることが多く、現場で立会う事があります。最初は相談を受けても何も分からず先輩方に対応して頂いていましたが、今は少しずつではあります自分で対応できるようになってきたと思います。また、30年近く棚倉町に住んでおりましたが自分が住んでいる地区位しか土地勘が無く、場所が分からない

事がありました。その際に地区によって水田や水路の状況がここまで違うのか、と思う事が多々あります。自分の住む地区も細部までは理解出来ていなかったのが先輩方は沢山の努力をして覚えてきたのかと実感しました。私も先輩方に追いつけるように努力して参りたい所存であります。

最後になりますが、今後も皆様への感謝の気持ちを持ちながら業務に取り組みたいと思いますのでご指導ご鞭撻のほど、宜しく御願致します。

はじめまして

磐城小川江筋土地改良区

今 美貴

会員の皆様はじめまして。令和7年4月より磐城小川江筋土地改良区で勤務しております今美貴と申します。よろしく御願いたします。

私はいわき市で生まれ育ち、田んぼに囲まれた環境で過ごしてきました。小川江筋は、私にとって幼少期から馴染みの深い存在でした。小学校の校歌に小川江筋をうたう歌詞が

入っていたり、夏は川遊びをしたりしていました。今、そんな小川江筋に関わるお仕事に就けて、とてもうれしく思います。

恥ずかしながら私はこれまで、土地改良区がどんな仕事をしているのか全く知りませんでした。入職してから、聞きなれない単語が多く覚えることもたくさんで戸惑うことも多いですが、同時に新しい知識を覚えるのが楽しく、新鮮な毎日を送っています。未だにわからないことがたくさんありますが少しずつ土地改良区の仕組みや仕事内容にも理解ができるようになってきました。今までは当たり前のように感じていた風景も、食べているお米も野菜も、土地改良区に勤務してからその裏側にある多くの努力や仕組みに気付き、より一層感謝の気持ちが高まりました。

仕事をしていて、何よりもコミュニケーションが大事だと実感しています。私は現在22歳ですが「こんな若い子に任せて大丈夫なのか」と心配される場面もあると思います。そんな不安がなくなるよう、江筋の組合員さんや役員さんなど、電話での対応や直接お話を聞く際にしっかりと向き合って、信頼を築けるよう努

力したいと思いました。前職は接客業だったため、丁寧に話を聞く姿勢を大事にし、相手の立場になり考える経験をここでも活かしたいです。

入職してまだ日が浅いですが、早く仕事に慣れて信頼される職員になりたいです。田んぼに囲まれて育った私だからこそ、しっかりと仕事と向き合って頑張ります。まだまだ未熟者で至らない点も多々あるかと思いますが、日々精進しながらひとつひとつの業務に誠実に取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

よろしく願います

安積疏水土地改良区 宗形 凱斗

令和7年4月より安積疏水土地改良区の職員となりました宗形凱斗と申します。よろしく願いいたします。

大学では日本近代史・地域史を専攻していました。少し長めのモラトリアムを経て安積疏水土地改良区の求人を見た際、ゼミで『郡山市史』の中から安積疏水を扱った章の発表

を行なっていたことが、就職を考える中で自然と思い返されました。今回、執筆の機会をいただき、この「むつみ」を通じて、土地改良区の業務を少しでも知ろうとしていたことを思い出しています。

さて、水利課に配属され、実際に働き始めてからは、想像していた以上に新しく経験することが多い日々でした。水路の巡回や施設の操作、草刈りなど、日々の業務を通じて現場に出る機会も多くあります。また、天候や季節によって作業内容も変わり、準備の大切さを実感しました。そんな現場作業の中でも印象に残っているのは、事前に思い描いていたイメージとは異なっていた作業でした。

4月の初め、初めてチェーンソーで木を切る場面を間近で見ました。まさかチェーンソーを扱うとは思っておらず、さらに切った後の重い木を運ぶ作業が続きました。これまで重いものといえば、せいぜい自治体史程度だった私にとって、その重さは想像以上でした。何とか運んでその日の作業を終える頃には、私の非力さはすっかり周囲に知れ渡ることとなりました。

また、水路の塵芥取りといえは、

胴長を着用して水路の中にざぶざぶと入って行うものだと思ひ込んでいましたが、実際には除塵機やスクリーンが設置されており、多くの場合、水路に入る必要はありませんでした。

実際に現場に立ち、水路の維持管理に携わる中で、末端まで水を届けることの重要性を少しずつ実感するようになりました。まだまだ分からないことも多いですが、先輩方のご指導を受けて知識と経験を一つ一つ積んでいきたいと考えています。地域の農業や暮らしを支える仕事に携わっていることを意識しながら、日々の業務に向き合っていきたいと思っております。

よろしく願います

安積疏水土地改良区 滝田 翼

皆様はじめまして。令和7年4月から安積疏水土地改良区事業部工務課に配属されました滝田翼と申します。どうぞよろしく願います。

私は安積疏水の受益地になっている須賀川市の出身で高校まで須賀川

で過ごし、大学は県外の大学で学んで、地元に戻って仕事をしたいと思

い就職活動を行い、縁あって安積疏

水土地改良区で勤務しております。

恥ずかしながら私は安積疏水につい
ての知識は小学校の授業で学んだ程
度で、土地改良区という名前や、実
際の業務について何をするのかはわ
からず、就職活動中に初めてその存
在を知りました。さらに、土地勘も

あまりなかったため、ほぼ知識ゼロ
からで不安の多いスタートになりま
した。郡山市と須賀川市岩瀬方面に

だけ管理する水路があると思ってい
たのですが、本宮市や猪苗代町、須
賀川の市街地近くにも水路があると

聞き、全域の水路を巡回するだけで
も半日はかかるほどの延長があるこ
とから、様々な地域に水を届けてい

ることを知り、安積疏水の重要性を
改めて実感いたしました。

4月からおよそ8カ月間の業務を
振り返ってみると全く知識のない状
態から仕事の流れが少しずつ分かっ

てきて成長を実感できるようになっ
てきました。聞き慣れない言葉や

場所に行くルートなど、まだまだわ
からないことが多く、自分一人では

うまくいかないことや空回りするこ
ともあるので組合員の皆様や業者の

方々、先輩、上司の皆様にご迷惑を
かけてばかりで申し訳なさを感じて
おります。

最後になりますが、まだまだ未熟
でご迷惑をお掛けする事もあるかも
しれませんが、できるだけ多くの業

務をこなし、組合員の皆様の力にな
れるように日々努力してまいります
ので、各役員を含めた組合員の皆

様、各関係機関の皆様には今後もお
世話になると思いますが、ご指導ご

鞭撻のほどよろしく願います。

土地改良区の職員 として

会津東部土地改良区

古俣 睦

皆様初めまして。令和6年11月よ

り会津東部土地改良区に勤務してお
ります古俣睦と申します。どうぞよ
ろしく願っています。

私は前職JAに勤務し、渉外担当
として地域の皆様を訪問しながら、

営農、金融、共済などに関するご相
談やご提案に携わってきました。地

元出身ということもあり、以前から
顔見知りの方も多く、また、幼い頃

から田んぼの手伝いをしていた為、

地域農業を支えているのは人と人と
の信頼関係であるということ強く
感じていました。

現在、土地改良区の職員として業
務に従事するようになり、早いもの
でもう1年が過ぎました。私は幼い

頃から田園風景に慣れ親しみ、水路
や農業用水は常に身近にある存在
だった為、その重要性について特に

考えることは今までありませんでし
た。しかし、土地改良区職員になり、

改めて農業用水の確保や水路管理が
地域農業を支えているという事を実
感するようになりました。実際に現

場を回る中で、水路は一見単純な構
造に見えても、長年の改修や地域ご
との事情により複雑に入り組んでお

り、取水や配水の調整など維持管理
には高度な知識と経験が必要である
ことを学びました。また、少しの管

理不足が農作物や地域生活に大きな
影響を及ぼす可能性があることか
ら、その責任の重さと難しさを日々

感じていきます。さらに天候や季節に
よって水量や水路の状態が大きく変
化するため、常に状況を把握し、柔

軟に対応することの重要性も痛感し
ています。このように日々学んでい
る中で、現在私は会計業務を主に携

わっており、組合員の皆様からお預

かりしている賦課金や補助金など、
その一つ一つが事業の円滑な運営に
直結している事を常に頭に置きなが
ら取り組んでいます。

まだまだ経験が浅く至らない点も
たくさんありますが、理事長や局長
をはじめ、組合員の皆様からの温か

いご指導をいただきながら、経験と
知識を積み重ねていきたいと考えて
います。また、1日でも早く組合員

の皆様へ安心していただける土地改
良区運営に貢献できるよう努めてい
きたいと思っておりますので、今後とも

よろしく願います。

よろしく願います

水士里ネット福島

古関 隼也

はじめまして。令和7年4月より

福島県土地改良事業団体連合会にお
世話になっております、古関隼也と
申します。よろしく願っています。

私は生まれも育ちも福島市でした
が、大学では一時故郷を離れ、機械

系の学部に入學し、近頃話題のAI
を利用した建物の耐震性を向上させ

る研究をしていました。これまで、農業に直接関わってきたことは全くなかったため、分からない事ばかりで勉強の日々が続いています。

現在は、農村振興部農村整備課に配属され、ほ場整備事業における調査・設計業務を主に担当しています。業務の中で使われる言葉に専門用語が多く、初めて打合せに参加した際は、何かの呪文を唱えているように感じたことなどもありましたが、上司や先輩の方々に教えていただき、少しずつではありますが自分の知識として身につけながら業務に取り組みることができています。

入会以前はほ場整備事業に関してほとんど知識がありませんでしたが、実際に業務に携わってみると、その幅広さと奥深さに驚きました。設計業務に関しても、ただ農地形状を整えるだけではなく、用排水路の接続口や標高、勾配などの条件をクリアした上で、耕作者の方が使いやすいように道路や進入路を配置するなど考慮する点がとても多く、それらの条件や地元からの要望を設計に反映するためにも、関係機関や地元の方々との連携、コミュニケーションがとても重要だと感じています。まだまだ未熟であり、皆様にご迷

惑をおかけしてしまうこともあるかと思いますが、1日でも早くお役に立てるよう、自分の仕事に責任を持ち一杯取り組んで参りたいと思っております。これからも引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

よろしく願います

水士里ネット福島
岡田由紀子

この度、福島県土地改良事業団体連合会の一員として、総務企画部施設管理課に配属されました岡田と申します。

平成20年に臨時事務員として入会し、主に水士里情報センターにおいてGIS作業に携わってまいりました。このたび職員採用試験を受験する貴重な機会をいただき、本年度より正職員として採用されましたことを、大変ありがたく、身の引き締まる思いで受け止めております。

私はいわき市出身で、桜の聖母短期大学への入学を機に福島市へまいりました。入学式当日に雪が降り、4月とは思えない寒さだったこと

や、盆地特有の夏の蒸し暑さに大変驚いたことを、今でもよく覚えております。

温泉が大好きで、これまで東北各地の秘湯や温泉銭湯を巡る湯めぐりを、休みの日や時間のあるときには積極的に楽しんできました。コロナ禍をきっかけに、「せっかくなら身近な温泉を毎日のように楽しみたい！」と思い、飯坂町へ引っ越ししました。朝6時から夜10時まで利用できた共同浴場に、朝晩通う生活を心から楽しみにしていたのですが、今年から営業時間が短くなってしまいました。正直とても残念でなりません。それでも、地域の方々に長年愛され、守られてきた共同浴場が、暮らしのすぐそばにあることのありがたさを、毎日しみじみ感じています。

話が少しそれましたが、これまでの業務で培った経験を生かしつつ、職場の皆さまにご指導やご助力をいただきながら、会員の皆さまのお役に立てるよう、誠心誠意努めてまいります。今後とも、変わらぬご支援ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願います。

表紙写真 「ふくしま むらの輝き2025」 写真コンテスト
「かかしが見守る収穫の日」 菊地 喜悦 さん

